

不況下、情報交換熱心に

大府で産学官連携交流会

大府市と大府商工会議所主催の産学官連携交流会が十七日、市役所で開かれた。景気の冷え込みが続く中、企業の担当者は大学や助成制度を活用しようと、各ブースで熱心な

製作所、東洋発酵、型善」と名城大のコーディネーターがパネルディスカッションに臨んだ。「連携のきっかけは大学の研究者が材料を買ってくれたこと」

「相談は無料。事業化



企業、大学、官庁のブースで先端事例の説明を受ける来場者＝大府市役所で

すると共同研究で数十万から二百万円ぐらいいい」「大学同士も連携しているの、どこかに相談すればふさわしい研究者にたどり着く」といった事例が紹介された。中小企業基盤整備機構のブースでは助成や表彰制度の一覧が配られ、経営者らが制度の内容を質問。大学では研究の最先端の情報を

展示し、あるコーディネーターは「今まで接も、大学の強みを生かして共栄できるような提案をしている」と話して共栄できるような提案をしていました。

(長坂幸枝)